

(続報) 上海における都市封鎖による物流への影響

中国最大の経済都市である上海市での都市封鎖(ロックダウン)が始まり、4週間が経過します。
今回は本紙3月31日号でお伝えした、上海における都市封鎖による物流への影響の続報をお伝えします。

1. 上海の港湾を取り巻く状況

- 中国政府のゼロコロナ政策のもと3月28日から始まった上海市での都市封鎖(ロックダウン)から4週間が経過しますが、全面的な封鎖解除や正常化にはまだ時間を要する状況です。陽性患者・無症状患者の発生がなかった一部の地域では条件付きの封鎖解除がなされているものの、いまだ多くの地域で外出制限があり、市内の混乱はおさまっていません。
- 中国交通運輸省は、港湾作業の停滞に対策を講じることを発表、上海市も道路封鎖等のむやみな制限をすることを禁じており、国際コンテナ船を中心に本船はスケジュール通り航行しているものが多いものの、ヤード内や倉庫で通関できない輸入貨物の滞留が続いています。
- 上海の貨物停滞を受け、上海からの輸送シフトで周辺の太倉港のヤードが飽和状態になるなどの混乱も発生しました。

2. 物流への影響

- 交通運輸省によれば、上海市の港湾の安定運営に向けて25,000人の作業者が港湾作業に当たっている他、国際コンテナ船の出入港に全力をあげており、港での本船滞在時間は今年1~2月に比べても改善傾向にあります。
- 一方、道路の封鎖や上海エリアを走行するドライバーの確保が難しいこと等より、上海に物資を運ぶトラックの輸送費が高騰しています。山東省から上海までのトラック輸送費が平常時の4倍以上に跳ね上がったとの事例も報告されています。
- その背景には、防疫措置により多くのトラックが輸送途中で足止めされ、輸送能力自体が大幅に不足したことがあげられます。また、上海を訪問した履歴のあるトラックドライバーが地元等で長期間の隔離措置を受けることから、収入の減少を懸念して上海エリアの輸送を避ける傾向があり、ドライバー確保が困難になっていることも理由の1つです。
- 陸運手段を確保できない企業もでてきており、一連の防疫措置の長期化が企業や現地での生活にもたらす影響は「広範かつ深刻だ」という見方も出ており、日本大使館上海領事館も上海市政府への要望書を提出しました。
- 中国交通運輸省は、高速道路出口やサービスエリアにPCR検査所を設け検査効率を高めたり、目的地到着時にPCR検査結果が48時間を超えている場合でも抗原検査が陰性であれば通行を認める等の措置を発表し改善に努めています。
- ドライバーの上海市内滞在時間が4時間以内であれば戻った際の隔離処置が免除されるよう、滞在履歴が携帯アプリ上に記録されないようなソフト面での対策も出され始めています。輸送の早期正常化に向けての対策が進み始めていますが、日本発上海向けの国際郵便(EMS)の受入れが停止される等、完全な正常化へはもう少し時間はかかりそうです。

上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。



【出展】

NNA.com <https://www.nna.jp/>

日本海事新聞 <https://www.jmd.co.jp>

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリントピックスバックナンバー